

さんむのふるさと散歩 NO.52

伊藤左千夫は大正二（一九一三）年七月三十日に脳溢血で深夜昏睡状態になり、同日午後六時家族に見守られて五十歳の生涯を閉じました。三十一日・八月一日の両日、本所茅場町の『唯真閣』で通夜を営み、八月二日午後三時に出棺、亀戸普門院にて告別式を行って今年（二〇一三）で一〇〇回忌となります。



写真1 伊藤左千夫墓所

告別式には葬儀委員長の中村不折・斎藤茂吉・島木赤彦・蕨眞・蕨檀堂・蕨桐軒・木村芳雨・岡麓・胡桃沢勘内・古泉千樞・結城素

明・土屋文明などアララギ派会員、森鷗外・佐々木信綱・夏目漱石・前田夕暮・高浜虚子ら文壇・歌壇・俳壇から多くの参加がありました。また、平成二六年は伊藤左千夫生誕一五〇年にあたります。近代短歌の鉄人左千夫の生誕地として、今年、来年と多くの顕彰事業を予定しています。是非ご来館ください。

- 第一弾として、平成二五年度企画展「左千夫のてがみ」を開催します。
- I 「純へ」（石原純）  
4月6日（土）～7月15日（月）
  - II 「蕨眞へ」（蕨眞二郎）  
7月20日（土）～11月4日（月）
  - III 「節へ」（長塚節）  
11月9日（土）～3月30日（日）

I 「純へ」は石原純の孫森裕美子さんから寄贈していただいた左千夫直筆の手紙・ハガキを展示します。森さんは神奈川県逗子市

に「理科ハウス」という世界一小さな科学館の館長をしています。

石原純は左千夫の通夜・葬式には参加していません、いや出来なかつたのです。石原純は物理学者で明治四四年から大正三年までドイツに留学していたため参加できませんでした。森さんが科学を学んだのは祖父石原純の影響が大きかったようです。



写真2 留学記念写真（アララギのメンバーと）

寄贈していただいた資料には大変珍しい手紙がありました。

ドイツに留学している石原純に宛てたものですが、宛名はドイツ語で書かれています。左千夫がドイツ語が書けたのではなく、弟子

の斎藤茂吉が書いています。茂吉は医師ですからドイツ語には堪能だったためだと思います。

手紙は左千夫直筆です。宛名を茂吉が書き、手紙は左千夫、宛てが純と三人の歌人が関係した手紙は重要な資料と思います。是非ご来館ください。

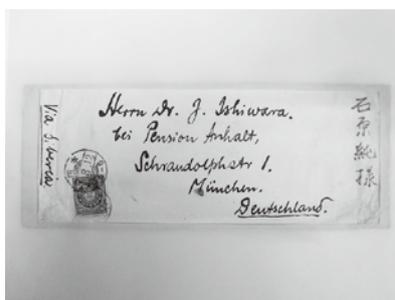


写真3 ドイツ語の宛名

問 歴史民俗資料館

☎(82)2842